

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	個人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例
-------	---------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

福岡県朝倉市

○学校名

朝倉市立南陵中学校

○学校のURL

なし

2. 学校紹介

○学級数

【学級】 8 学級、【特別支援学級】 2 学級、【合計】 10 学級

○児童生徒数

【全校生徒数】 260 人（平成25年5月31日現在）
（1年生 95 人、2年生 76 人、3年生 89 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】 確かな学力、たくましく生き抜く力を身につけ、高い志をもった生徒の育成。

【人権教育の目標】 自分の大切さとともに、他の大切さを認めることができ、それが態度や行動に現れるようにする。

【学校が目指す生徒像】

- 自主・自発の精神に富み、活力ある生徒・・・自立
- 自他を敬愛し、互いを認め合う生徒・・・協調
- 知性と教養を磨き、心と体を鍛える生徒・・・練磨

○人権教育にかかる取組の全体概要

学校教育目標及び人権教育の目標達成に向けて、次の4点を取組の基本的な視点に据え、人権教育の推進を図る。①すべてが等しく学習機会を得て、自己の能力を最大限に伸ばす。②人権や人権問題について学び、理解を深める。③人権が大切にされた環境で学ぶ。④人権が大切にされる社会を目指す。

学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進を図るため、さらなる指導内容の充実を目指すとともに、指導方法の工夫・改善に積極的に取り組む。

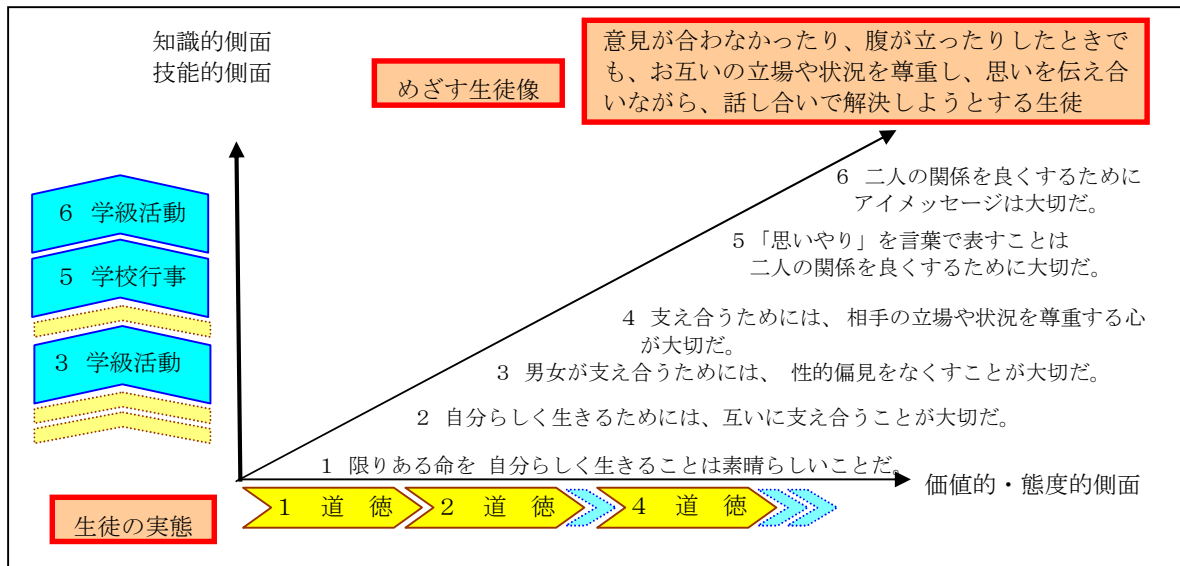
3. 特色ある実践事例の内容

【道徳、特別活動と人権教育を関連付けた学習活動の研究開発】

人権教育における三つの側面を教科・領域の目標に総合的に位置付けることは、個別的な人権課題の解決に向けて大切なことであると考えます。

○ 三つの側面を総合的に位置付けた学習について

道徳・特別活動を関連づけ6時間で授業を構成した。下図は、道徳の時間と特別活動の時間の授業系列を横軸と縦軸に、そして、それぞれの活動後の目指す生徒像を座標面上に表したものである。領域の前の番号は、学習の順番を示している。



【若年層におけるデートDV防止に関する学習活動づくり】

若年層におけるデートDVが増加し、デートDV防止のための啓発が不足しているという実態を踏まえ、人権教育の視点から、加害者、被害者、傍観者にならないための学習活動が必要であると考えた。

【実践事例1 学校行事】

校内文化祭で生徒会劇を行った。劇の内容は、自分の思いを相手に伝えるのが苦手な少女が、交際相手から暴力等の被害に遭いながらも友達の支えで自分を取り戻していく物語である。誰にでも起こりうる状況の中で、お互いが居心地の良い関係でいられる方法が何であるかを全校生徒に知ってもらうことを目的に取り組んだ。朝倉市の文化ホールを会場とし、保護者や地域の方に参観していただくことで、中学校の取組について理解を深めるとともに、デートDVに関する啓発活動の機会となった。

劇中では、自分の言動がデートDVであることに気づかずに相手を責め続ける男性側、自分がされている行為がデートDVであることに気づかずに相手を許してしまう女性側の視点を意図的に重ね合わせることで、生徒のデートDVに対する問題意識の自発的な喚起を促した。



※シナリオの一部

《被害者側（女性）の視点》

ルミ : 「どうだった？ ちゃんと言えたの？」
ユリ : (首をふる)
ルミ : 「はあ～」
ナルミ : 「やっぱりねえー なんかそんな気がしてたんだあ」
ルミ : 「私たちついていくべきだったねえ」
ナルミ : 「そうだね・・・でもさあ何でちゃんと言わなかったのよ」
ユリ : 「いや、違うの ちゃんと言おうと思ったんだけど、タカトくんが謝ってくれたんだ。昨日はどうかしてたんだって ホントゴメンって何度も何度も…。だからもう一度やり直してみようかなって」
ルミ : 「大丈夫？ほんとお。またほかの男のメアド消せとか言われるよー絶対！」
ユリ : 「うん、でもタカトくんがさ、ほかの人とメールしてほしくないのは、ユリの方が好きだからだって言ってくれたんだ。だからいいの」
ルミ : 「ふ～ん まーあんたがいいならいいけどさあ」
ナルミ : 「うん まあそうだけど…。ほんとにいいのかなあ」

《加害者側（男性）の視点》





ルミ : 「なんで何も言わないのよ、今ユリ突き飛ばされたんでしょ？」
ユリ : 「う…ううん 私が勝手にころんだだけだから…大丈夫だから…」
ナルミ : 「あんた何言ってるの？ なんでこんなやつかばってるのよ」
タカト : 「ナルミ、そー怒んなって。そもそもナルミは関係ないんだから俺とこいつの問題なんだしさあ」
ナルミ : 「は？関係なくないし友達が傷つけられてんの見て、だまってるわけないでしょう」
タカト : 「でもしょうがないだろ。俺はこいつとつきあってんだからケンカすることもあるって。大体こいつが大丈夫って言ってんだから大丈夫なんだって」
ルミ : 「大丈夫なわけないじゃん。
ねえユリ、ホントにただのケンカなの？」
ユリ : 「いいから 私のことはいいから
もう私のことはほっといてよ」



【実践事例2 学級活動】

1 主 眼 デートDVを正しく理解し、デートDVに遭遇した時に適切な対応ができるようになる。

2 展 開

生徒の学習活動	指導上の留意点
<p>1 学習の目当てをつかむ 内閣府が出した調査結果を見て課題を知る。</p> 	<p>デートDVの実態を理解させるために、内閣府男女共同参画局の調査結果を表示して説明する。</p>
<p>目当て デートDVに遭遇した時の対処法を考えよう</p>	
<p>生徒会劇のビデオを見ながら、デートDVにおける具体的な暴力等について聞く。</p> 	<p>デートDVを説明するために生徒会劇を視聴させ、具体的に説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>身体的暴力、心理(精神)的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力</p> </div>
<p>2 加害者被害者それぞれが認識していない場合に、友人としてできることを考える。 (1) ケース1について、自分だったらどう話しかけるかを考え、ワークシートに記入し、班で考えをまとめ、ロールプレイを行う。 <被害者がデートDVを認識していない場合></p>	<p>デートDVの知識がある人の役割を認識させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>うん、でもタカトくんがさ、ほかの人とメールしてほしくないのはユリのこと好きだからだって言ってくれたんだ。だからいいの。</p> </div> 	<p>友人である被害者と、その交際相手の言動がデートDVであることを、アイメッセージを用いて伝えさせる。 ・二人の関係を尊重していること (自分・相手・気持ち・体)</p>
<p>(2) ケース2について、自分だったらどう話しかけるかを考え、ワークシートに記入し、班で考えをまとめ、ロールプレイを行う。 <加害者がデートDVを認識していない場合></p>	<p>アイメッセージが利用できるように個別に支援する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>でもしょうがないだろ、俺はこいつと付き合ってるからケンカすることもあるって。だいたいこいつが大丈夫って言ってんだから大丈夫なんだって。</p> </div> 	<p>ロールプレイが活発に行われるように、机間巡視しながら生徒の意欲的な姿勢や伝え方の良さを個別に称賛する。</p>

3 ロールプレイを見て、正しく伝えることの重要性を班で話し合う。

正しい知識を持っている人が、加害者被害者それぞれに、正確に伝えることが大切である。

4 学習のまとめをする。

(1) 今後、交際するときに、より良い関係でいられるように自分が心がけることと、分かったことや感じたことをワークシートに記入する。

自分の力では解決できない問題に直面したときは、専門の機関に相談することを伝える。

【実践事例3 道徳】

1 主眼 男女は、互いに独立した一個の人格としてその尊厳を重んじ、人間としての成長と幸せを願い、互いに向上していくことができる。


2 資料名 恋しくて (「99のなみだ—涙がこころを癒す短篇小説集」より抜粋)

3 展開

補助発問

基本発問

中心発問

	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 学習の目当てをつかむ。</p> <p>「こんな夫婦になりたいな」アンケートの結果を発表します。</p>	<p>本時の主眼達成に向けた意欲や態度を高めるために、事前アンケートの結果を表示する。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">目当て 「人を愛するとは」の意味を考えよう</div>	
展開	<p>2 彼女の葬儀に向かった「私」の気持ちについて考える。</p> <p>(1) 読み物資料①を読み、考えを述べる。</p> <p>私は、どんな気持ちで彼女の葬儀場に向かったのでしょうか。</p>	
	<p>3 9回もプロポーズした「私」の気持ちについて考える。</p> <p>(1) 読み物資料②を読み、考えを述べる。</p> <p>私は、まるで別人のようになった彼に、なぜ9回もプロポーズをしたのでしょうか。</p>	
	<p>4 残された時間を知った「私」の気持ちについて考える。</p> <p>(1) 読み物資料③を読み、共感する方を選択し、その理由を述べる。</p> <p>残された時間を知った私の彼に対するA・Bどちらの思いに、あなたは強く共感しますか。</p>	<p>彼よりも先にいくつらさと、揺るがない彼の姿に、彼への信頼と敬愛の念が生まれる私の思いに共感させるという自己決定の場とするために、黒板にどちらを選択したかネームプレートを貼らせる。</p>

- 4 学習のまとめをする。
 (1) 『瞳を閉じて』を聴く
 (2) 人を愛するということについて自分の考えをまとめ発表する。

終末

人を愛するとはどういうことだと考えますか。



- (3) 授業を終えての感想を書く。



「人を愛する」ということは、互いに独立した一個の人格としてその尊厳を重んじ、人間としての成長と幸せを願い、互いに向上していこうとする心である。

4. 実践事例の実績、実施による効果

【研究の成果】

ア 価値的・態度的側面について

目指す生徒の姿に必要な価値的・態度的側面の変容を調べるために、アンケートを実施した。質問項目は4つあり、それぞれにおける調査結果は下の資料1となった。

資料1

とても思う

少し思う

あまり
思わない

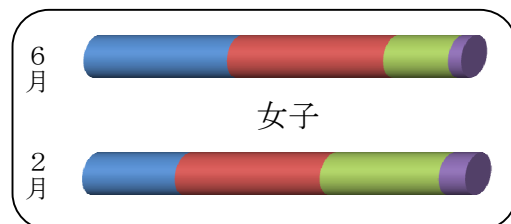
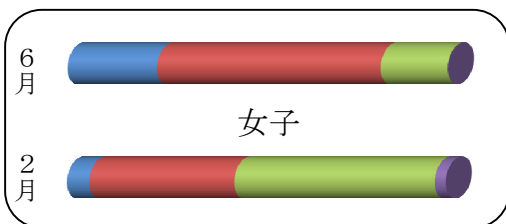
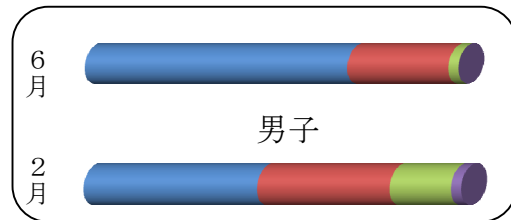
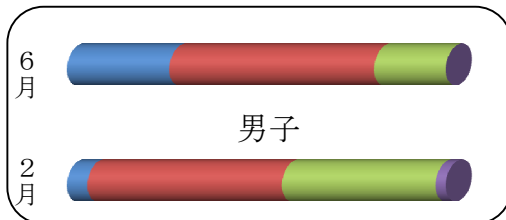
全く
思わない

質問項目1

家事や育児は女性の仕事だ

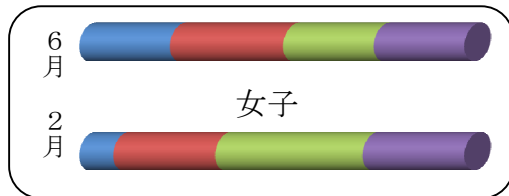
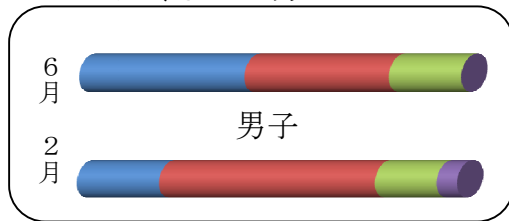
質問項目2

男性は家の中心として家族を養うべきだ



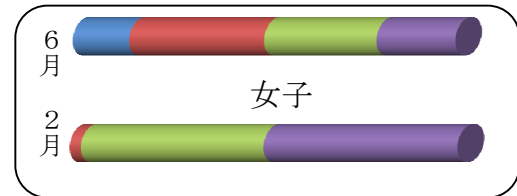
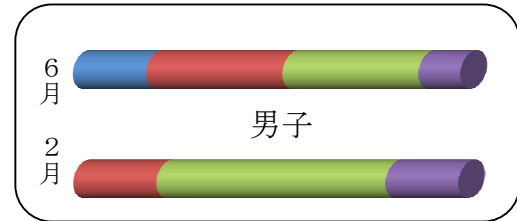
質問項目 3

男性は弱音を吐かず強く
たくましい方がよい



質問項目 4

女性は自己主張せず
控えめの方がよい



イ 知識的側面・技能的側面について

目指す生徒の姿に必要な知識的側面と技能的側面の変容を調べるために、アンケート調査と学級集団アセスメント調査を実施した。その調査結果が下の資料 2 となった。

学級集団アセスメントは5月と10月に実施した。学級集団アセスメントで利用したソーシャルスキルには次の二つの内容がある。

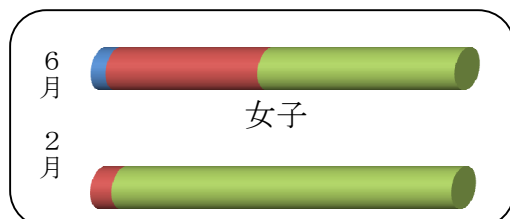
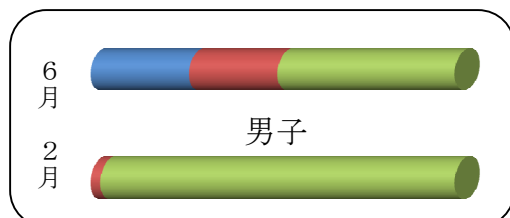
- 1 「配慮」のスキル…対人関係における相手への気づかいや最低限のマナーやルールなどの知識やさりげない気づかい
- 2 「かかわり」のスキル…人とかかわるきっかけづくり、対人関係の維持、集団生活に主体的にかかわる姿勢などの能動的な行動

資料 2



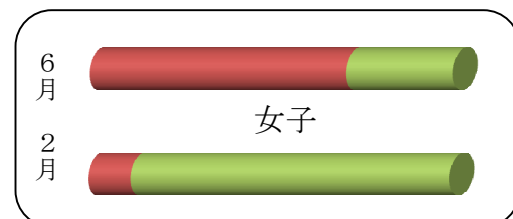
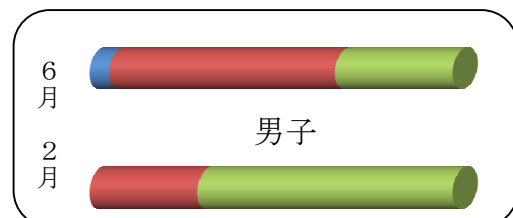
質問項目 5

交際相手と意見が合わないとき
どうしますか



質問項目 6

交際相手に腹が立ったら
どうしますか



資料3

価値的・態度的側面の生徒の実態〈学級集団アセスメントを活用〉

ソーシャルスキルの項目	6月	11月
「配慮」のスキル	28.1	30.9
全国平均 30.3	全国平均との差〈-2.2〉	全国平均との差〈+0.6〉
「かかわり」のスキル	26.8	28.0
全国平均 27.3	全国平均との差〈-0.5〉	全国平均との差〈+0.7〉

5. 実践事例についての評価

【取組の考察】

ア 価値的・態度的側面について

資料1の質問項目1～4の6月と2月の調査結果を比較すると、無意識のうちに作られた性別による固定的な役割分担意識の変容が見られる。質問項目1と2は、女性に対する役割分担意識の調査項目であり、男女とも「あまり思わない」「全く思わない」と答えた生徒が増加した。

質問項目3と4は、性別に対する固定観念に関する調査項目である。男女とも「あまり思わない」「全く思わない」と答えた生徒が増加したが、男子の「とても思う」「少し思う」と答えた生徒もまだ多く、男子生徒自身が、強い男性像を抱いていることも分かる。

こうした結果から、デートDVの防止に向けた性別による固定的な役割分担意識を解消するために、学習の中で性的偏見に関する学級活動を行うことは有効だと分かった。また、男子生徒自身が「強い男性像」を抱いている実態から、家庭や地域への啓発も含めた新たな取り組みの必要性を感じている。

イ 知識的側面・技能的側面について

資料2の6月と2月の調査結果を比較すると、特に、質問項目6において「言葉で気持ちを伝える」と答えた生徒が多くなった。「自分の気持ちを相手に言葉で伝える」ことは相手との対等な関係性を作ることになり、デートDVを未然に防止するためには必要な心構えである。また、資料3の結果から2つのソーシャルスキルにおいて伸びが見られた。こうした結果から、デートDVを未然に防止するために必要な人権尊重精神を育み、防止に必要なスキルを高めるためには、道徳の時間を中心とする学習の編成を行うことは有効だと分かった。

【取組の評価と今後の課題】

デートDVに陥らないために、三つの側面の中から育てたい資質・能力を明確にし、それらに関連づけた学習を実施した。調査結果から、自他を大切にする項目でプラスへの変化が見られ、一連の学習が効果的であったことが明らかになった。今後は、中学校3年間の段階的なカリキュラムや単元の編成が課題と考える。

また、保護者への啓発を含め、様々な機関と連携していくことが、更に学習効果を上げるポイントであると考えられる。そのための具体的な指導方法等の工夫・改善に積極的に取り組みたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

朝倉市立南陵中学校

昨今、若者たちの間でクローズアップされているデート DV を題材として取り上げ、いわゆる人権教育の三側面である「知識的側面」「価値・態度的側面」「技能的側面」を人権学習に総合的に位置付けて展開し、かつ検証を試みた取組となっている。

取組の中では、デート DV に関する学習を通して固定的な性別役割分担意識や性的偏見にメスを入れ、校内文化祭の生徒会劇を朝倉市の文化ホールを会場として上演し、保護者や地域住民への啓発にも役立てた点や、二度にわたる学級集団アセスメントにより、学習後の生徒たちの変容ぶりが検証されている点が評価される。こうした人権学習のプロセスや手法は、単にデート DV にとどまらず、あらゆる人権課題の学習に有効であると考えられる。

今回の報告事例を一つのステップとして、今後の人権教育の営みがますます拡大していくことを期待したい。